



日々の暮らしで排出される缶・びん・ペットボトルは赤色の指定袋で毎週水曜日に収集を行っています。集められた袋は一つひとつ開封し、人の手で選別しそれぞれリサイクル事業者に引き渡しています。

どれくらい出されているの？

令和7年度実績では、缶は82ト、びんは87ト、ペットボトルは55トの合計224トが収集されました。

した。普段は「一つひとつ小さなもの」に見える空き缶なども、積み重なることで大きな資源になります。

出されたものはどうなるの？

回収された缶・びん・ペットボトルは、それぞれの性質に応じた処理を経てリサイクルされ、再び資源として活用されます。缶は金属の原料として再利用され、びんは再生利用やガラス製品の原料などとして使われます。ペットボトルは、ペットボトルへの再生利用や繊維製品の原料などに生まれ変わっています。

潰しても大丈夫？

缶・ペットボトルは潰して出しても構いません。袋の中がかさが減ること、収集・運搬の効率化にもつながります。一方で、出す前には、中身を使い切り、軽くすすいでから赤の指定袋に入れてください。汚れが残っていると、リサイクルの工程で支障となる場合があります。



介護福祉学校と栗山高校を隔月で取材！
頼られる介護福祉士に



1年 原山 愛さん(写真左)
浅野 由愛さん(写真右)

介護福祉学校生は、入学から3カ月経つと、介護施設で5日間の実習を積んで、秋にも同じ施設で再度実習を行います。10月に実習を控えている1年生の2人取材しました。

高齢者に寄り添う仕事を



高校卒業後、看護師を目指して大学に進学した原山さんは、在学中に祖母を亡くし、祖父が一人暮らしになってしまったことをきっかけに、高齢者に寄り添う仕事がしたいと思うようになりました。そして、2年間通った大学を退学し、学費の負担が少なく、寮もある介護福祉学校に魅力を感じて入学します。

「7月の実習では、職員さんに相談することも始めは勇

気が必要でしたが、のびのびと仕事をしている様子を見て徐々に慣れました。職員さん達からたくさんことを学びました」と話す原山さん。また、利用者さんの笑顔に救われ、スキルを高めたという意欲をもって研修に望めたそうです。

介護のイベントに参加して

平取町出身の浅野さんは、高校生の時、進路の先生に勧められて介護福祉学校の体験イベントに参加しました。イベントでは、高齢者が安全に摂取できるよう、飲み物にとろみを付けるなど、いろいろな配慮がされていることを知ったことで、高齢者の介護について興味をわき、介護福祉士を目指しました。



目指すは信頼される介護士

「利用者さんが、今できることを大切にしながら、毎日を笑顔で過ごせるよう寄り添い、ご家族にも信頼される介護福祉士になりたいです」と原山さん。

浅野さんは「利用者さんの意思を尊重した支援ができ、報告、連絡、相談のできる、職員から頼られるような介護福祉士を目指しています」と、目標を話す二人は、秋の実習で、利用者さんと再会できることを楽しみにしていました。

ごみステーション修繕や生ごみ減量のための補助金があります！

町では、ごみステーションの更新・修繕や家庭から排出されるごみの減量のため生ごみ堆肥化容器や処理機購入費の補助を行っています。

ごみステーション設置整備事業補助金



▲HP対象補助金ページ

- 【対象】
- ・ごみステーションなどの更新や修繕を、町内業者に依頼、もしくは、町内小売業者などから資材調達を行って行う町内会や自治会など
- 【補助金額】
- ・ごみステーションなど1カ所につき上限5万円（事業に要する経費3分の2）
 - ・同一団体において、年度内に実施した事業補助金額の交付上限は10万円

【申請方法等】

- ①事前に見積などを依頼し交付申

生ごみ堆肥化容器等購入費補助金



▲HP対象補助金ページ

- 【対象】
- ・町内に住所を有する世帯主
 - ・1世帯1台
 - ※生ごみ堆肥化容器と生ごみ処理機との併用での補助受給はできません。
 - ・町内の販売店で購入すること
 - ・年度内（令和9年3月31日まで）に購入したもの
- ※補助金額や申請方法などは広報くりやま5月号をご覧ください。